

2007年3月期 年間決算 FAQ

Q1:2期連続の赤字となっているが、今年度（2008年3月期）の業績見通しはどうか？今年度の営業黒字化は達成可能なのか？

A1:今年度の半導体売上高は、前年比約1.5%増の6,700億円を見込んでおります。昨年後半からの半導体市況悪化により、今年度上期の業績については依然として厳しい状況が続くと見込んでおりますが、オリンピックを睨んだ市況の回復により、下期については売上の回復を見込んでおります。損益面では、半導体売上の増加による収益の改善に加え、固定費の削減を中心とした経営の効率化等により営業利益で0億円を見込んでおります。

Q2:今年度の半導体売上見込み（前年比約1.5%増）の中で、どのアプリケーション（用途）に期待しているのか？

A2:今年度は「民生用電子機器分野」、「自動車および産業機器分野」、「多目的・多用途IC」分野で前年と比べて売上増を計画しています。具体的な製品ということでは、デジタルテレビやDVDレコーダーなどに使われる画像処理LSI（EMMAシリーズ）やゲーム機向けの半導体、「オール・フラッシュ・マイコン」を中心とした汎用マイコンなどに期待しております。また、自動車および産業機器分野も自動車の電装化の高まりとともに着実な売上増を計画しております。

Q3:今年度の設備投資、減価償却費・リース料、研究開発費の前提は？

A3:今年度の設備投資計画は700億円です。NEC山形の300ミリウエハラインの能力増強が一定の規模に達したことなどから、前年比で約300億円投資を抑制いたします。また、減価償却費とリース料の合計値は1,120億円で、前年比で約40億円の減少を見込んでおります。研究開発費については1,220億円で、前年比で約100億円削減する計画となっております。

Q4:今年度の業績見通しにおいて、リスク要因はあるのか？ここ数年と同じく、結局はまた業績の下方修正を繰り返すのではないか？

Q4:今回発表した業績見通しは、売上計画につきましては、当社が想定する半導体市場成長率の下限を基に作成しており、200億円の固定費削減を確実に実行すること等により営業黒字化を必達いたします。これは、当社経営陣全員のコミットメントです。

以上